

教育の内部質保証システムの構築に向けて －学修成果の可視化の実践事例－



山梨県立大学
Yamanashi Prefectural
University



地域を愛し、地域を育て、
地域を繋ぐ大学

令和元年6月10日(月)

山梨県立大学理事長・学長
清水一彦

はじめに

なぜ「教育の質保証」か？

大学制度の日米比較～価値形成は？～

	日本	価値形成	アメリカ	価値形成
	6-3-3-4制		5-3-4-4制、6-3-3-4制	
学期制	セメスター制	量的平等性	セメスター制、クォーター制	質的多様性
単位制	セメスター単位		セメスター単位、クォーター単位	
卒業制度	4年以上、124単位	統一性	120(180)単位、GPA	多様性
教育	教養教育、専門教育	最高の指導人材	リベラルアーツ	最高の教養人
機能	組織中心主義	協調性	プログラム中心主義	学修成果
学習(修)	受動的学習	教師重視	能動的学修	学生重視
研究	個人研究費	平等	競争的外部資金	競争
1学期履修科目	10科目～	量の重視	4～5科目	質の重視
学習集団	コホート集団(同一年齢集団)	横並び	異年齢集団	切磋琢磨
認証評価(第三者評価)	官と民のシステム	トップダウン	民のシステム	ボトムアップ

大学教育の質保証・向上関係施策(中教審)

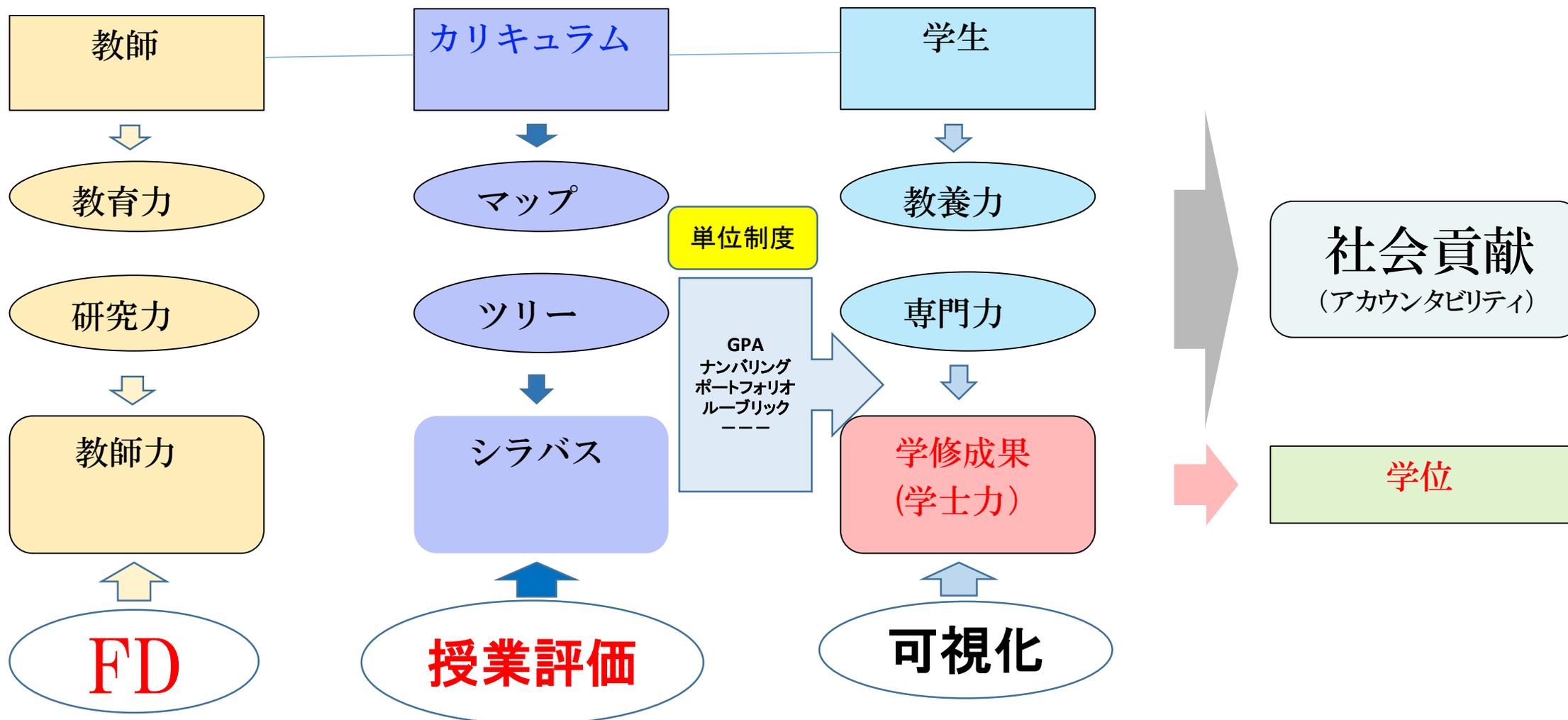


改革事項	2019	工程表	2020
教学マネジメントの確立	教学マネジメント指針の策定、省令改正(2020～)		
教育質保証システムの確立	質保証部会設置、設置基準改正、認証評価改正(2020～)		
学修成果の可視化	学生調査試行		
学位プログラムの制度化	制度改正		本格実施
多様な教員の採用	実務家教員養成プログラムの開発・実施		
教育プログラムの多様化	履修証明・単位累積加算制度の改正		
リカレント教育の推進	社会人向けプログラムの新規開発・拡充		
留学生交流の推進	日本留学海外拠点、留学生の就職促進プログラム		
大学院教育の体質改善	大学院部会審議まとめ、省令改正(2019～)		
博士課程学生への経済支援	授業料減免、特別研究員制度		

「教育の質保証」をどうとらえたか？

教育の質保証の考え方(原点回帰)

—社会に有為な人材輩出のシステム構造—



着任前の状況(2014年)

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University



	理念・目的	教育目標	3つの	ポリシー	
			ディプロマ	カリキュラム	アドミッション
大学	○	×	×	×	×
国際政策学部	○	○	○	○	×
総合政策学科	○	○	○	×	○
国際コミュニケーション学科	○	○	○	×	○
人間福祉学部	○	○	○	○	○
福祉コミュニティ学科	×	○	○	×	○
人間形成学科	×	○	○	×	○
看護学部(看護学科)	○	○	○	○	○
看護学研究科(看護学専攻)	○	○	○	○	○

着任前の状況(2014年)

共通教育

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University



	国際政策学部		人間福祉学部		看護学部	全体
	総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニケーション学科	人間形成学科	看護学科	
共通科目数	75	75	81	81	81	393
開設単位数 (A)	140単位	140単位	153単位	153単位	157単位	743単位
卒業要件 (共通教育)	22単位	22単位	22単位	22単位	16単位	104単位
当初推奨 単位数(2倍) (B)	44単位	44単位	44単位	44単位	32単位	208単位
A÷B	3.2倍	3.2倍	3.5倍	3.5倍	4.9倍	3.6倍

専門教育

(教職科目41科目は除く)

山梨県立大学

Yamanashi Prefectural University



キャンパス
キャラクター
やまちゃん

	国際政策学部		人間福祉学部		看護学部	全体
	総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニケーション学科	人間形成学科	看護学科	
専門科目数	194	188	136	139	104	761
開設単位数 (A)	327単位	312単位	234単位	222単位	169単位	1264単位
卒業要件 (専門教育)	102単位	102単位	102単位	102単位	115単位	523単位
基準推奨 単位数 (1~2倍) (B)	102単位~ 204単位	102単位~ 204単位	102単位~ 204単位	102単位~ 204単位	115単位~ 230単位	523単位~ 1046単位
A÷B	1.6~ 3.2 倍	1.5~ 3.1 倍	1.1~ 2.3 倍	1.1~ 2.2 倍	0.7~1.5倍	1.2~ 2.4 倍

どのような手順で進めたか？

学内改革のための戦略目標とガバナンス



<div data-bbox="573 297 797 368">ガバナンス</div> <div data-bbox="435 458 657 529">戦略目標</div>	パワー (power)	リーダーシップ (leadership)	スキンシップ (skinship)
学内FDの講師役 「教職協働」	×	○	◎
たたき台(下案)の 作成	◎	○	◎
年度所信表明 中期目標・計画	○	◎	◎

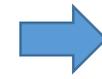
外部委員指摘



学修成果の可視化のプロセス

3つのポリシー(*)の見直しから始める

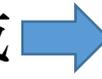
1. 学士力の策定



全学レベル(学士基盤力) 学部レベル(学士専門力)
及び教職課程(学士教職力)ごとに設定



2. カリキュラムマップ・ツリーの作成



約1,200科目ごとの学士力を決定



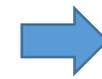
3. 新授業評価制度の設計



学修成果の項目を設定



4. 実施(学修成果の可視化)



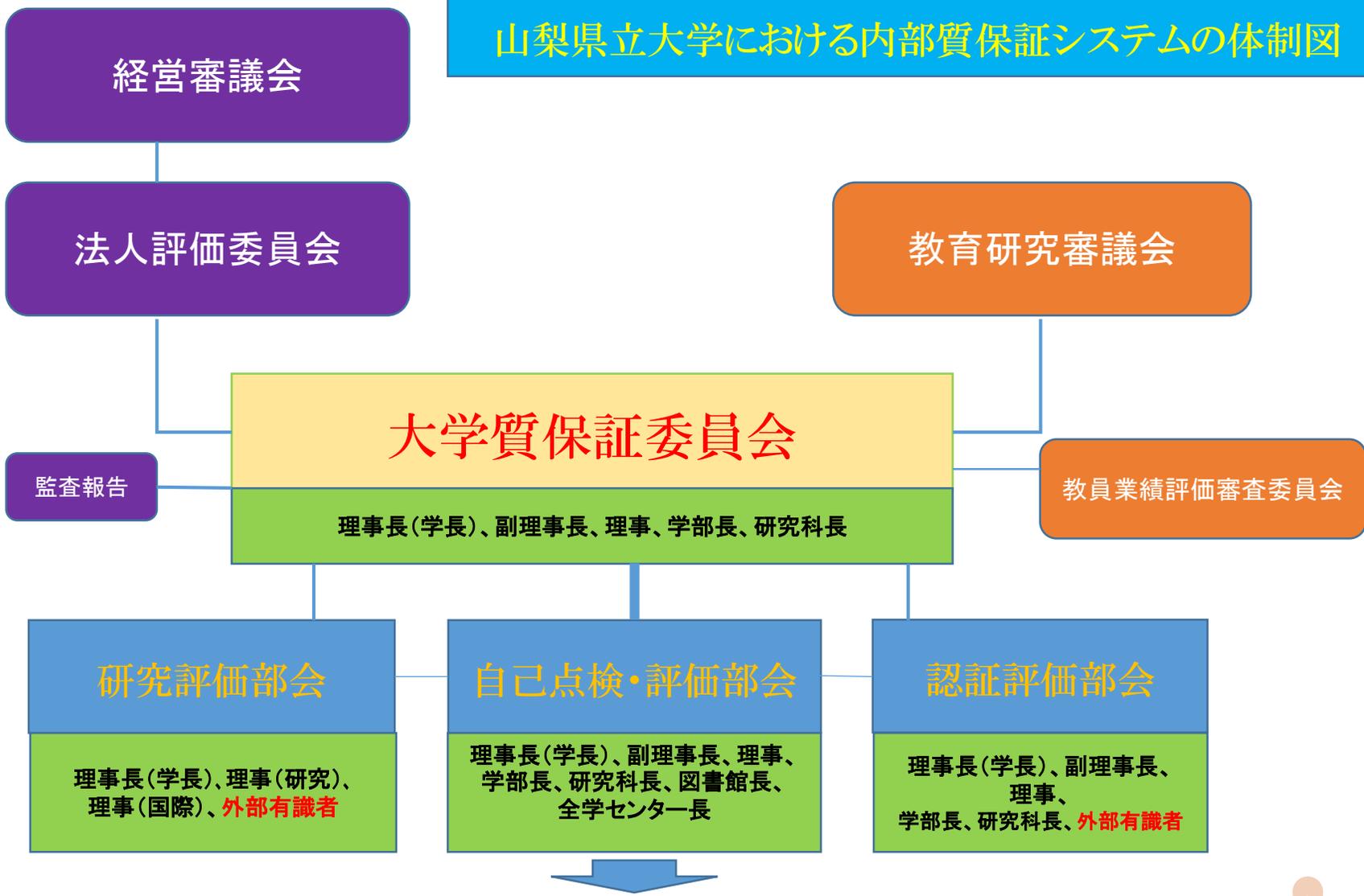
学修成果の数値化を実現



*3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)

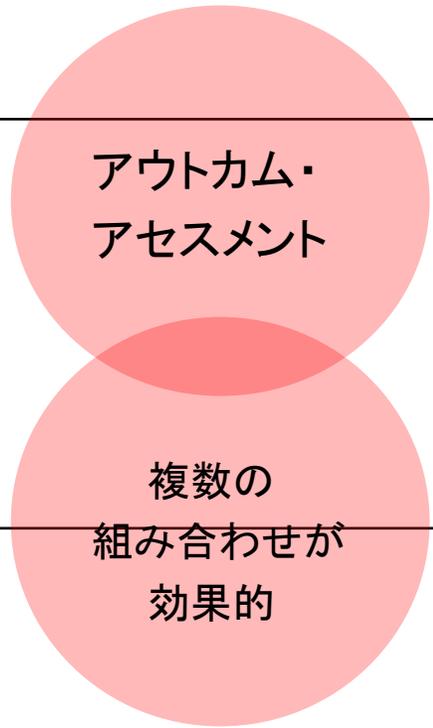
①
体制の
整備

山梨県立大学における内部質保証システムの体制図

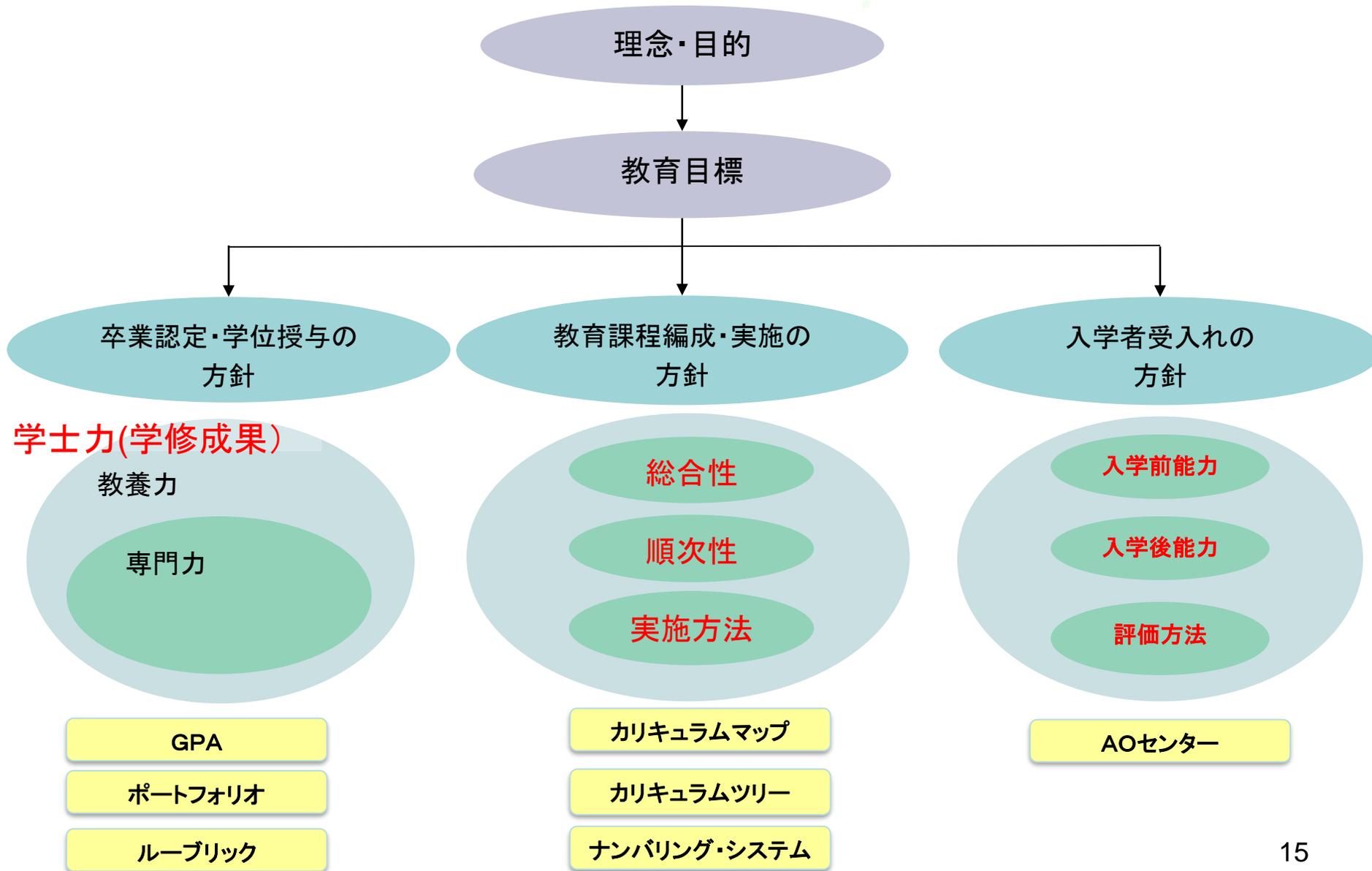


1. 学長をトップとする内部質保証に責任を負う**全学組織**を設置する。
2. 既存の全学委員会を**部会制**に編制し、部局等との有機的連関を確保する。
3. **少人数制**を採用し、機動性をもたせる。
4. **副学長**職も設置

●学修成果を可視化する

	マクロレベル 大学全体・学部・プログラム	ミクロレベル 教室内・授業	
直接データ	標準テスト (CLA,TOEFL,TOEIC) ルーブリック 国家試験合格率 GPA	ルーブリック ポートフォリオ レポート テスト (個別テスト、標準テスト) 卒業論文	 <p>アウトカム・ アセスメント</p> <p>複数の 組み合わせが 効果的</p>
間接データ	学生実態調査 学生満足度調査 卒業生調査 雇用者調査 就職率	授業評価	

3ポリシー義務化への対応(イメージ図)



②

学士力 策定

具体的な学修成果

学士基盤力

測定方法

全学 共通 科目	自然・社会・文化を大切にするとともに、専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を自然・社会・文化と関連付けて理解している。	自然・社会・文化理解	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「自然・社会・文化理解」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「自然・社会・文化理解」に係る科目の修得
	豊かな感性や想像力、表現力を身につけている。	想像力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「想像力・表現力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「想像力・表現力」に係る科目の修得
	自身の未来を切り拓くために独創的に思考し、問題の発見・探究・解決に向けて行動することができる。	実践力・問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「実践力・問題解決力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「実践力・問題解決力」に係る科目の修得
	発展的な人間関係の形成に向けて、自己省察や他者理解に努めることができる。	人間関係形成力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「人間関係形成力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「人間関係形成力」に係る科目の修得
	自ら学び、成長する意欲や態度を備えている。	自己学修力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の修得
	地域的・地球的課題に関心を持ち、その解決を志向できる。	地域・国際 コミットメント力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「地域・国際コミットメント力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「地域・国際コミットメント力」に係る科目の修得

具体的な学修成果

学士専門力 (看護学部)

測定方法

看護学部	看護学科	自然や地域・社会への関心を持ち、幅広い教養を身につけることができる。	教養を高める力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「教養を高める力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「教養を高める力」に係る科目の修得
		豊かな人間性を備え、自律した自己学修力を身につけることができる。	自己学修力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の修得
		人間や社会、及び健康について看護学の視点から探究することができる。	探究する力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「探究する力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「探究する力」に係る科目の修得
		自己理解や他者理解に努め、看護の対象となる人々と援助関係を形成することができる。	援助関係形成力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「援助関係形成力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「援助関係形成力」に係る科目の修得
		根拠に基づいて看護実践するための科学的思考力及び倫理的判断力を身につけることができる。	思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「思考力・判断力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「思考力・判断力」に係る科目の修得
		人々の健康課題を解決する看護実践に必要な専門的知識・技術・態度を身につけることができる。	看護実践力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「看護実践力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「看護実践力」に係る科目の修得
		保健・医療・福祉などのチームの一員として、人々と連携し協働することができる。	連携し協働する力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「連携し協働する力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「連携し協働する力」に係る科目の修得

看護学研究科

目的・理念

看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与するとともに、高度専門職業人、看護学教育者及び看護学研究者等の人材を育成する

教育目標

本学看護学研究科では修了時点で以下のような能力の習得を目指して教育を行います。

[専門看護師コース]

(知識・理解)

- ・各専門看護分野の看護実践を支える主要な概念・理論・方法を理解できる。
- ・優れた教養をもとに看護学の理解を深める基盤となる諸科学の最新の知識を理解できる。
- ・職業的倫理について深く考え理解できる。

(思考・技能・実践)

- ・個人・家族または集団に対して、起きている事象の本質や問題の核心を捉え、介入の方略を計画・実践し、その成果を打ち出すことができる。
- ・看護職者を含むケア提供者に対して、ケアの質を向上させるために、相談、教育、ケア調整、倫理的課題への調整を実践することができる。
- ・看護実践現場の課題の解決を図るために、科学的思考・論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。
- ・各看護専門分野における新しい課題にチャレンジし、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる。

(態度・志向性)

- ・患者・家族のアドボケートとして倫理的な意思決定を支えるために、倫理的感受性を高め、専門職としての倫理観を身につけることができる。
- ・高度な看護実践者として、自立して役割を発揮するために自己洞察、自己研鑽する態度を身につけることができる。
- ・看護実践において、変革・向上・開発の意識を持ち、常に疑問を追及する研究的態度を身につけることができる。

[研究コース]

(知識・理解)

- ・各専門看護分野の看護実践を支える主要な概念・理論・方法を理解できる。
- ・優れた教養をもとに看護学の理解を深める基盤となる諸科学の最新の知識を理解できる。
- ・職業的倫理について深く考え理解できる。

(思考・技能・実践)

- ・看護界のリーダー及び教育者として豊かな発想力、創造力、先見性を身につけることができる。
- ・看護学の発展や専門知識・技術の向上・開発を図るために、科学的思考・論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。

(態度・志向性)

- ・看護学と看護実践を高く価値付け、看護界のリーダーとして推進する姿勢を持てる。
- ・看護実践において、変革・向上・開発の意識を持ち、倫理観に裏づけられた研究的態度を身につけることができる。
- ・ヒューマンイズム(人間愛)に富み、看護の対象のQOLを真摯に願い行動する態度を身につけることができる。

学位授与の方針

看護学研究科は、以下のような知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定し、修士(看護学)の学位を授与します。

- 1.看護学と看護実践の発展に寄与するための研究の基礎的な能力や組織・制度変革を推進することのできる能力を身につけている。
- 2.専門分野における研究能力や理論に裏付けられた高度な看護実践能力を身につけている。
- 3.優れた教養と高い専門的知識を有し、職業的倫理を深く理解した看護のリーダー及び教育者としての能力を身につけている。

教育課程編成の方針

本研究科は、看護の各専門分野の高度看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成するために、専門看護師コースと研究コースを置き、高度な実践能力と実践の場における研究能力、及び看護の理論とその構築について探求できるように教育課程を編成します。

共通科目は、全学生の学修の基盤となる授業科目として設けます、また、専門看護師に求められ基礎的な能力の育成に必要な授業科目を含みます。

専門科目は、専門看護師コースでは各専門分野に必要な能力を養成するために、特論、演習、実習、特定課題研究の授業科目を設けます。研究コースでは、特論、演習、特別研究の授業科目を置きます。

入学者受入れの方針

看護学研究科では教育目的の実現に向けて、次のような意欲と能力を持った学生の入学を期待して入学者選抜を行います。

- 1.看護学の学修及び看護の実践から生じた問題意識を持ち、大学院で学修・研究する明確な意思と、そのために必要な学力のある人
- 2.看護実践の開発・改善に向けて学究的に取り組もうという意欲を持った人
- 3.高度看護実践者、看護学教育者、看護学研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 4.看護学と看護実践を高く価値付け、看護界のリーダーとして活動する意欲を持った人

山梨県立大学 カリキュラムツリー(全学レベル)

④

カリキュラム
ツリー

専門科目

教職科目

全学共通科目

基礎科目

教養科目

学部開放科目

外国語

総合英語Ⅱ
中国語Ⅱ
韓国語Ⅱ
スペイン語Ⅱ
フランス語Ⅱ

総合英語Ⅰ
英語コミュニケーション
中国語Ⅰ
韓国語Ⅰ
スペイン語Ⅰ
フランス語Ⅰ

アカデミック・
ジャパニーズ
日本語
A/B/C/D
現代日本事情

情報

情報
リテラシー
生活と情報

運動・健康

運動と人間
運動と人間
生活と健康

キャリア

インター
シップ

キャリア
デザインⅡ

キャリア
デザインⅠ

人間・文化

人間と思想
人間と芸術
人間と文化
人間と心

社会

人間と社会
社会と歴史
社会と政治
社会と経済
社会と法
日本国憲法

自然

宇宙の科学
生物の科学
生活と科学
モノづくり
デザインの基礎

現代・地域

環境論
ジェンダー論
グローバル化論
山梨学
日本語の方言と
山梨

コミュニケーション・心

プレゼンテーション
グループワークと自
己表現
カウンセリング基礎
発達と教育の心理

国際政策学部開放

国際関係論
平和と安全保障
文化とコミュニ
ケーション
譲歩社会論
情報ネットワー
ク論
留学英語
共生社会論
韓国学概論
国際理解演習
(韓国)
ソーシャルデザ
イン入門

人間福祉学部開放

地域ボランティア
演習
コミュニケーシ
ョン基礎
生徒幸福
生涯スポーツ

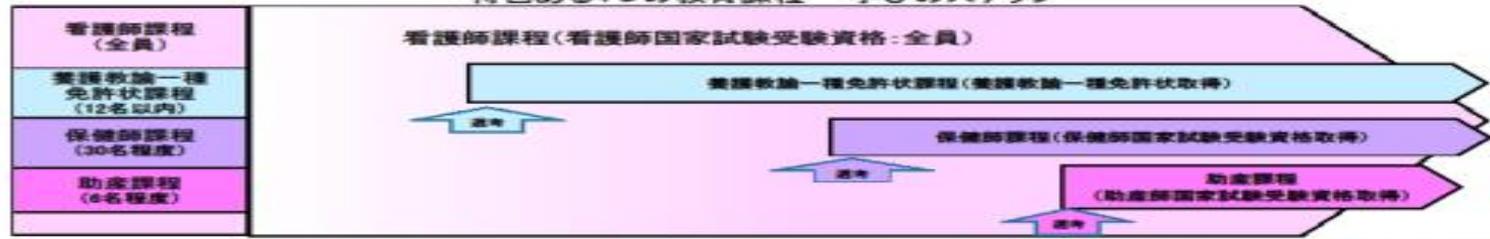
看護学部開放

リラクゼーション
救急法
災害支援
国際協力

スタートアップ・セミナー

看護学部

山梨県立大学 看護学部看護学科 カリキュラムツリー
特色ある4つの教育課程 学びのステップ



学年	1年	2年	3年	4年		
全学共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎科目 (外国語・情報・運動と健康・キャリア形成の授業科目) ●教養科目 (人間と文化の理解・社会の理解・自然の理解・現代と地域の理解・コミュニケーションと心の理解の授業科目) ●学部開放科目 (国際関係論、平和と安全保障、留学英語、地域ボランティア演習、コミュニケーション基礎、生と幸福等) 					
看護学部専門科目	人間存在領域	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 解剖生理学 病原微生物学 臨床栄養学 看護心理学 人間関係論Ⅰ いのちの社会学 生活健康科学 社会福祉学総論 保健統計学 ○選択科目 [救急法] (養) 人間工学 [リラクゼーション] [災害支援] [国際協力] 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 人間の遺伝学 公衆衛生学 ○選択科目 [救急法] (養) 性のヘルスピロモーション 人間関係論Ⅱ [災害支援] [国際協力] [看護英語] [国際保健医療演習] 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 保健福祉行政学 疫学 ○選択科目 [リラクゼーション] [災害支援] 多文化社会の保健・医療・福祉 [看護英語] [医療英語] [国際保健医療演習] 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択科目 [医療英語] 	
	実践領域	実践基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 治療学各論Ⅰ 治療学各論Ⅱ 精神保健論 薬理学総論 臨床演習学 看護過程展開論 ○選択科目 補充・代替医療 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 治療学各論Ⅰ 治療学各論Ⅱ 精神保健論 薬理学総論 臨床演習学 看護過程展開論 ○選択科目 補充・代替医療 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 実践基礎看護技術Ⅱ 小児看護学Ⅱ 急性看護学Ⅱ 精神看護学 リハビリテーション看護論 小児看護学実習Ⅱ・Ⅲ 急性看護学実習Ⅱ・Ⅲ 成人・老年臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 精神看護学実習Ⅱ ○選択科目 がん看護学 クリティカルケア看護論 臨床看護過程展開論 (養) 	<ul style="list-style-type: none"> ●実践応用科目 小児看護学実習Ⅱ・Ⅲ 急性看護学実習Ⅱ・Ⅲ 成人・老年臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 精神看護学実習Ⅱ ○選択科目 認知症ケア論
		実践応用科目	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 病態治療学 看護学総論 看護学総論 基礎看護技術論Ⅱ 基礎看護技術論Ⅲ ヘルスアセスメント基礎論 ○選択科目 看護学実習Ⅰ 看護学実習Ⅱ 看護学実習Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 人間発達看護助産 ヘルスアセスメント実践論 実践基礎看護技術Ⅰ 実践基礎看護技術Ⅱ 小児看護学Ⅰ 急性看護学Ⅰ 成人・老年臨床看護学Ⅰ 成人・老年臨床看護学Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習Ⅰ ○選択科目 看護学実習Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 実践統合科目 小児看護学実習Ⅱ・Ⅲ 急性看護学実習Ⅱ・Ⅲ 成人・老年臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 精神看護学実習Ⅱ ○選択科目 がん看護学 クリティカルケア看護論 臨床看護過程展開論 (養) 	<ul style="list-style-type: none"> ●実践統合科目 看護管理学 看護教育学 在宅看護論実習Ⅱ 看護実践総合演習 看護統合実習 ○選択科目 学校保健論 (保) (養) 産業保健論 (保) 災害看護論 (養) リエゾン精神看護
	留学・協理領域		<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 看護学実習Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択科目 看護学実習Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択科目 認知症ケア論 	
	研究領域		<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 ケアのジェンダー学 生命倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択科目 ケアのジェンダー学 生命倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択科目 認知症ケア論 	
教職課程科目	<ul style="list-style-type: none"> 初級実践演習 *** 教職入門 教育基礎論 教育カウンセリング 教育課程論 	<ul style="list-style-type: none"> 初級実践演習 *** 特別活動の指導法 教育方法論 生徒指導 看護実践 障害児特別活動指導論 道徳教育の指導法 教育経営論 進路ガイダンスラーニング *** 	<ul style="list-style-type: none"> 初級実践演習 *** 教職サービスマーケティング ** 	<ul style="list-style-type: none"> 初級実践演習 *** 看護実習専修・事後指導 看護実習 		

注1 **は、いずれかの学年で履修することができる科目です。
注2 ***は、2年から4年にかけて履修する科目です。
注3 **は、1年から3年にかけて履修する科目です。
注4 ***は、2年から3年にかけて履修する科目です。
注5 ***は、1年～4年にかけて毎年履修する科目です。

⑤
GPA制度

山梨県立大学のGPA制度(F-GPA)

GPAによる学修状況・学修成果の判断基準

評価	S										
素点	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90
GP	4.5	4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5

評価	A										
素点	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	
GP	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5	

評価	B										
素点	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	
GP	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6	1.5	

評価	C										
素点	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	
GP	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	

評価	D
素点	59点以下
GP	0

GPA	学修状況および学修成果の総合的判断
4.5~3.5	学修への取り組み状況が非常に良好な大変優れた成果
3.4~2.5	学修への取り組み状況が良好な優れた成果
2.4~1.5	学修への取り組み状況が概ね良好な成果
1.4~0.5	学修への取り組みが不十分でより一層の努力が必要
0.5未満	学修への取り組みが著しく不足しており相当の努力が必要

科目	学生A	学生B
総合英語 I a (2単位)	79点 (GP=2.4)	80点 (GP=2.5)
情報リテラシー (2単位)	69点 (GP=1.4)	70点 (GP=1.5)
運動と人間-実技 (1単位)	79点 (GP=2.4)	70点 (GP=1.5)
GPA	2.0	1.9
素点平均点	75.7点	73.3点

<参考>
筑波大学の場合 (変更)
A+ (90点~) 4→4.3
A (80~89) 3→4
B (70~79) 2→3
C (60~69) 1→2
D (60点未満) 0
P
F

学生AのGPA $(2.4 \times 2 + 1.4 \times 2 + 2.4 \times 1) \div 5 = 2.0$

学生BのGPA $(2.5 \times 2 + 1.5 \times 2 + 1.5 \times 1) \div 5 = 1.9$

⑥
ナンバリングシステム

山梨県立大学ナンバリングシステム

1	1	01	001	0
レベル (区分)	学科	科目群	通し番号	その他の分類

レベル

学部	共通科目	1
	専門科目	2
学部・大学院共通		3
大学院		4
教職		9

学科

全学共通科目・教職科目	0
総合政策学科	1
国際コミュニケーション学科	2
福祉コミュニティ学科	3
人間形成学科	4
看護学科	5
看護大学院	6

新たな授業評価制度の設計

(新)学生の授業評価

1. カリキュラムマップで設定されているこの授業の「学士力」を身に付けることができましたか？

④そう思う ③ややそう思う ②あまりそう思わない ①そう思わない

4段階評価(以下同じ)

2. この授業を受講したことによって、この分野の学びを深めたいと思いましたが？

3. 教員の説明はあなたにとってわかりやすかったですか？

4. この授業に対する教員の熱意を感じましたか？

<自由記述>

(1)この授業の内容や方法でとくによかった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください。

(2)この授業をよりよくするための提案があれば記入してください。

新授業評価の実施要領

一個々の授業改善から組織・制度開発への移行

1. マークシート方式
2. 全科目(卒研、ゼミ、実習等は除く)を対象
3. 教員の常勤、非常勤を問わない
4. 教員ごとではなく、学部・学科レベルで扱う
5. 複数教員担当科目は、1科目として扱う
6. 授業期間(最後の1~2回)内に行う
7. 複数の学士力設定科目は、学生は総合的に評価し、複数の学士力に評価を適用する
8. 1科目の設問1~4の平均は算出せず、設問ごとの平均は全学、学部、学科等ごとに算出する
9. 自由記述は画像化処理をする
10. 教員の自己評価(振り返り)は実施せず、学部等の判断による自己評価は妨げない
11. 授業評価結果の概括は、全学FD・SD委員会(委員長:学長)で行う

新授業評価の実施要領

一個々の授業改善から組織・制度開発への移行

1. マークシート方式
2. 全科目(原則として、卒研、ゼミ、実習等は除く)を対象
3. 教員の常勤、非常勤を問わない
4. 教員ごとではなく、学部・学科レベルで扱う
5. 複数教員担当科目は、1科目として扱う
6. 授業期間(最後の1~2回)内に行う
7. 複数の学士力設定科目は、学生は総合的に評価し、複数の学士力に評価を適用する
8. 1科目の設問1~4の平均は算出せず、設問ごとの平均は全学、学部、学科等ごとに算出する
9. 自由記述は画像化処理をする
10. 教員の自己評価(振り返り)は実施せず、学部等の判断による自己評価は妨げない
11. 授業評価結果の概括は、全学FD・SD委員会(委員長:学長)で行う

実施(学修成果の可視化)

平成29年度前期 授業に関するアンケート調査集計結果(学部別) **山梨県立大学**

9999

学部	〇〇学部	総履修者数	85
		回答数	85
		回答率	100.0%

項	設問文	当学部 平均	全体 平均	回答数/回答率				肯定 回答率 (4を回答 した比率)	有効 回答数	無効 回答数
				4	3	2	1			
				そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない			
1	カリキュラムマップで設定されている この授業の「学士力」を 身に付けることができましたか？	2.55	3.00	30	25	20	10	0.0%	85	0
				35.3%	29.4%	23.5%	11.8%			
2	この授業を受講したことによって、 この分野の学びを深めたいと 思いましたか？	3.00	2.59	20	40	20	5	0.0%	85	0
				23.5%	47.1%	23.5%	5.9%			
3	教員の説明はあなたにとって わかりやすかったですか？	2.37	3.55	35	30	5	15	0.0%	85	0
				41.2%	35.3%	5.9%	17.6%			
4	この授業に対する 教員の熱意を感じましたか？	2.46	2.88	25	15	20	25	0.0%	85	0
				29.4%	17.6%	23.5%	29.4%			

数字はダミー

			該当科目数	平均値	
学士基盤力	全学共通	自然・社会・文化理解	20科目	3.12	
		想像力・表現力	15科目	3.22	
		実践力・問題解決力	14科目	3.14	
		人間関係形成力	16科目	3.24	
		自己学修力	13科目	3.12	
		地域・国際コミットメント力	5科目	3.33	
学士専門力	国際政策学部	国際政策教養力	16科目	3.21	
		能動的実践力	14科目	3.12	
		外国語活用能力	20科目	3.22	
		専門の問題解決能力	5科目	3.14	
		地域マネジメント基礎力	13科目	3.24	
		地域マネジメント専門力	12科目	3.12	
		国際ビジネス・観光基礎力	16科目	3.33	
		国際ビジネス・観光専門力	2科目	3.21	
		国際コミュニケーション基礎力	18科目	3.12	
	国際コミュニケーション専門力	11科目	3.22		
	人間福祉学部	学部共通	知識・技能・教養	40科目	3.14
			専門的知識・技術力	22科目	3.24
			共感的理解力	13科目	3.12
			地域貢献力	16科目	3.33
			実践力・問題解決力	14科目	3.21
			人間関係形成力	18科目	3.12
		福祉 コミュニティ学科	知識理解力	16科目	3.22
			実践力・問題解決力	15科目	3.14
			人間関係形成力	11科目	3.24
			思考・技能	8科目	3.12
			共感的理解力	10科目	3.33
			地域貢献力	30科目	3.21
		人間形成学科	態度・志向性	22科目	3.12
			専門知識理解	15科目	3.22
			創造的表現力	16科目	3.14
			技能活用力	11科目	3.24
			研究力	30科目	3.12
			人間関係形成力	14科目	3.33
	自己学修力		16科目	3.21	
	社会貢献力		25科目	3.12	
	看護学部		教養を高める力	11科目	3.22
			自己学修力	17科目	3.14
		探究する力	19科目	3.24	
		援助関係形成力	32科目	3.12	
		思考力・判断力	21科目	3.33	
		看護実践力	13科目	3.21	
連携し協働する力		14科目	3.54		
変革を志向する力		15科目	3.42		
			3.25		
教職課程	教職知識理解	15科目	3.11		
	教職実践力	16科目	3.11		
	自己学修力	20科目			

* 数字はダミー

学士力の結果順位(2017年度前期)

3.35

数字は実際
4段階

3.37 学士基盤力 (共通)	学士専門力(学部・学科)				3.51 学士専門力 (教職)
	3.34 国際政策学部	3.29 人間福祉学部		3.39 看護学部	
		3.23 福祉コミュニティ学科	3.40 人間形成学科		
3.68 人間関係形成力	3.61 国際コミュニケーション専門力	3.31 実践力・問題解決力	3.56 社会貢献力	3.42 援助関係形成力	3.86 自己学修力
3.60 実践力・問題解決力	3.55 国際コミュニケーション基礎力	3.30 人間関係形成力	3.44 専門知識理解	3.41 看護実践力	3.67 教職実践力
3.40 想像力・表現力	3.54 地域マネジメント専門力	3.26 地域貢献力	3.40 研究力	3.41 思考力・判断力	3.50 教職知識理解
3.37 自己学修力	3.39 外国語活用能力	3.26 態度・志向性	3.39 自己学修力	3.40 教養を高める力	— 社会貢献力
3.33 自然・社会・文化理解	3.32 国際政策教養力	3.23 知識理解力	3.35 人間関係形成力	3.39 自己学修力	
3.32 地域・国際コミットメント力	3.28 国際ビジネス・観光専門力	3.22 思考・技能	3.33 技能活用力	3.39 探究する力	
	3.25 地域マネジメント基礎力	3.20 共感的理解力	3.32 創造的表現力	3.38 連携し協働する力	
	3.22 国際ビジネス・観光基礎力			3.38 変革を志向する力	
	— 能動的実践力				
	— 専門的問題解決能力				* —は該当科目なし

赤字は大学の使命・目的のキーワード、—は開設科目なし

学士力の結果順位(2017年度後期)

3.43

数字は実際
4段階

3.41 学士基盤力 (共通)	学士専門力(学部・学科)				3.61 学士専門力 (教職)
	3.42 国際政策学部	3.32 人間福祉学部		3.54 看護学部	
		3.29 福祉コミュニティ学科	3.38 人間形成学科		
3.80 実践力・問題解決力	3.52 国際コミュニケーション基礎力	3.36 実践力・問題解決力	3.58 社会貢献力	3.59 看護実践力	3.86 社会貢献力
3.55 人間関係形成力	3.51 外国語活用能力	3.34 共感的理解力	3.53 人間関係形成力	3.58 援助関係形成力	3.75 教職実践力
3.48 想像力・表現力	3.50 国際コミュニケーション専門力	3.32 人間関係形成力	3.41 技能活用力	3.57 教養を高める力	3.73 自己学修力
3.43 地域・国際コミットメント力	3.44 地域マネジメント基礎力	3.30 思考・技能	3.40 創造的表現力	3.56 連携し協働する力	3.56 教職知識理解
3.41 自己学修力	3.41 地域マネジメント専門力	3.29 知識理解力	3.39 研究力	3.54 自己学修力	
3.38 自然・社会・文化理解	3.41 国際政策教養力	3.28 態度・志向性	3.38 自己学修力	3.54 思考力・判断力	
	3.36 国際ビジネス・観光専門力	3.22 地域貢献力	3.34 専門知識理解	3.54 変革を志向する力	
	3.33 国際ビジネス・観光基礎力			3.53 探究する力	
	2.89 能動的実践力 － 専門的問題解決能力				



学士力の順位(2018年前期)

3.47

数字は実際
4段階

3.51学士基盤力 (共通)	学士専門力(学部・学科)				3.62学士専門力 (教職)
	3.34国際政策学部	3.41人間福祉学部		3.56看護学部	
		3.37福祉コミュニティ学科	3.47人間形成学科		
3.64人間関係形成力	3.92専門的問題解決能力	3.37実践力・問題解決力	3.87社会貢献力	3.56看護実践力	3.83自己学修力
3.51自己学修力	3.60国際コミュニケーション専門力	3.37知識理解力	3.50専門知識理解	3.56援助関係形成力	3.81社会貢献力
3.50想像力・表現力	3.51国際コミュニケーション基礎力	3.37態度・志向性	3.49人間関係形成力	3.56自己学修力	3.61教職知識理解
3.47自然・社会・文化理解	3.50地域マネジメント専門力	3.36思考・技能	3.43技能活用力	3.56探究する力	3.58教職実践力
3.46地域・国際コミットメント力	3.50国際ビジネス・観光専門力	3.33人間関係形成力	3.42自己学修力	3.55連携し協働する力	
3.38実践力・問題解決力	3.42国際ビジネス・観光基礎力	3.33共感的理解力	3.41研究力	3.55思考力・判断力	
	3.41地域マネジメント基礎力	3.31地域貢献力	3.40創造的表現力	3.55変革を志向する力	
	3.41外国語活用能力	3.64人間関係形成力		3.53教養を高める力	
	3.17国際政策教養力 － 能動の実践力				

学士力の結果順位(2018年度後期)

3.51

数字は実際
4段階

3.57学士基盤力 (共通)	学士専門力(学部・学科)				3.53学士専門力 (教職)
	3.43 人間福祉学部				
	3.38 国際政策学部	3.37福祉コミュニティ学科	3.51人間形成学科	3.67 看護学部	
3.77実践力・問題解決力	3.58国際ビジネス・観光基礎力	3.37知識理解力	3.64社会貢献力	3.70看護実践力	3.58教職実践力
3.76人間関係形成力	3.50国際コミュニケーション専門力	3.37思考・技能	3.64人間関係形成力	3.69教養を高める力	3.51自己学修力
3.61想像力・表現力	3.50専門的問題解決能力	3.36態度・志向性	3.55専門知識理解	3.68自己学修力	3.50教職知識理解
3.57自己学修力	3.49地域マネジメント専門力	3.34地域貢献力	3.55創造的表現力	3.68援助関係形成力	—社会貢献力
3.55自然・社会・文化理解	3.47国際ビジネス・観光専門力	3.34共感的理解力	3.52研究力	3.66変革を志向する力	
3.51地域・国際コミットメント力	3.47能動的実践力	3.32実践力・問題解決力	3.47技能活用力	3.65思考力・判断力	
	3.37外国語活用能力	3.21人間関係形成力	3.43自己学修力	3.64連携し協働する力	
	3.35国際政策教養力			3.63探究する力	
	3.33国際コミュニケーション基礎力				
	3.28地域マネジメント基礎力				



学修成果の可視化の実行を終えて-----

意義：

1. 「大学(教育)力」の社会発信の責任を果たす。
2. 学士力、カリキュラムの見直しに寄与する。
3. シラバスの充実化が期待できる。
4. 結果として、個々の授業改善にも繋がる。

課題：

1. 複数の学士力設定科目をどう取り扱うか。
2. 受講人数の違いをどう考えるか。
3. 組織へのインセンティブをどう考えるか。

(検討中)卒業論文とルーブリック評価

卒業論文ルーブリック評価(例)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4 到達目標
先行研究	先行研究の整理ができず、参考文献や資料等の収集も不十分である。	先行研究の整理はできているが、その分析が十分でなく、資料やデータ収集にも問題がある。	先行研究の整理や分析はある程度できており、一次資料・データも収集している。	先行研究や参考文献をよく読みこなし分析しており、一次資料・データの収集も十分に行われている。
問題設定	問題が不明確であり、研究の目的や追究すべき課題がみえない。	問題はある程度明確であるが、研究目的・方法に関わる問題設定の枠組みが不明瞭である。	問題は明確であり、研究目的も明確であるが、方法論においてやや不十分さが残る。	問題は明確であり、研究目的や方法もしっかりしており、研究枠組みが十分に出来ている。
考察	研究というより紹介レポートであり、課題解決になっていない。	論の展開がやや不十分なところがあり、そのため考察が十分とはいえない。	論の展開は比較的わかりやすく、考察もある程度しっかりしている。	設定した問題を丁寧かつわかりやすく解き明かし、説得力ある形で考察をまとめている。

(活用しよう!)卒業論文の評価

単位認定は成果に応じて行うことができる。

ねらいは？ → 大学の地域貢献度指標の開発

◎COC+(地方創生事業)の地域貢献度の客観指標(KPI)は、**雇用創出数、地元就職率**

◎日本経済新聞社『日経グローバル』の全国大学の地域貢献度ランキング

- ・地域貢献体制の充実度、
- ・学生の地域内就職やインターンシップ実績、
- ・産学連携や行政との連携、
- ・公開講座など地域住民へのサービス度 など



あまり関心・効果なし!?

数値化は難しい!



イメージ

「教育の質保証」の観点からの地域貢献度指標を開発

地域人材育成(地域貢献)科目群の設定



同科目群の学修成果の測定



大学、学部・学科レベルでの数値発表



大学団体等を通じて個々の大学の取組み及び結果を公表

大学通信簿

公立大学法人〇〇大学

	4段階
全学教育力	3.5
地域貢献力	3.8
〇〇学部	3.7
〇〇学科	3.8

<教養力、専門力の表示も可能>

教学マネジメント改革に向けて！

教学マネジメント 項目案

	中教審 教学マネジメント特別委員会	山梨県立大学
1	学修目標の具体化	教育内容の改善
2	授業科目・教育課程	教育方法の改善
3	成績評価	教育実施体制の確立
4	学修成果の把握・可視化	教職員の資質・能力の向上
5	情報公表	内部質保証と情報公表

山梨県立大学における教学マネジメントに係る指針(平成30年12月27日制定 大学第2002号)

山梨県立大学(以下、「本学」)における教学マネジメントに係る指針(以下、「指針」)は、本学におけるガバナンス・コードの基本原則2.に基づいて制定されるものである。

本指針は、大学全体の教育成果の可視化や学生の学修成果の可視化を実行しつつ、不断の自己点検・評価を通じて体系的・組織的な大学教育の改善に取り組むために、教育内容の改善、教育方法の改善、教育の実施体制の確立、教職員の資質の向上、及び内部質保証と情報公表の5項目について、以下のように定める。

1. 教育内容の改善

(1)本学におけるすべてのカリキュラムは、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて策定されたカリキュラム編成方針(カリキュラム・ポリシー)に従って体系的に編成するものとする。その際、科目の段階・レベルを示す科目ナンバリング・システムを導入・実施する。

(2)カリキュラムは、学問分野の進展とともに時代の要請や社会のニーズに応じて改編され、また教育の質保証の一環として行われる学修成果(学士力)の可視化の結果や学生の履修状況等を踏まえて不断の改善に取り組むものとする。

(3)カリキュラム編成においては、文系・理系の区別にとらわれない新しいリテラシーのほか、分野を超えた専門知や技能を組み合わせた高度なカリキュラムを開発・実践する。

2. 教育方法の改善

(1)教育の目的や授業の達成度目標に照らして講義、演習、実験・実習等の授業形態の組合せ・バランスを適切にするとともに、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法を採用するものとする。

(2)授業計画(シラバス)の充実と有効活用を図り、単位の実質化や学修成果の可視化を実現する。シラバスについては、授業の方法及び内容、到達目標もしくは修得すべき能力(学修成果)、成績評価の方法・基準、準備学習の具体的な内容、授業期間全体を通じた授業の進め方、及び実務経験のある教員による授業科目についてはその旨を記載する。

(3)学修成果や成績評価基準を適切に定め、厳格かつ適正な成績管理を実施し、公表する。その際、GPAなどの成績評価に係る客観的な指標を設定し、公表する。

3. 教育の実施体制の確立

(1)学生の学修を効果的にするために、履修単位の上限設定(CAP制)の適切な運用とともに、履修指導体制を確立する。

(2)定められた授業時間を確保するとともに、大学のグローバル化を推進するために柔軟な学事暦を開発・実践する。

(3)客観的なデータ分析に基づいた大学の諸活動の効果検証、及び情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援する教学IR(Institutional Research)体制を構築する。

(4)社会の変化に対応して学生のキャリアパスの多様化やキャリア形成を図るための専門的なキャリアサポート体制を確立する。

4. 教職員の資質・能力の向上

(1)大学教員の教育研究活動に関わる資質能力の向上(FD)や大学職員の大学運営・管理に関わる専門的能力の開発(SD)のための研修を計画的かつ組織的に実施するものとする。

(2)FD・SDは、単なる講演会にとどまらず、協働的な相互研修やワークショップ等を通じて行われ、評価文化の醸成を図るとともに、教育共同体の形成を実現するような高度化を図るものとする。

5. 内部質保証と情報公表
(次ページ拡大)

拡大！

5. 内部質保証と情報公表

(1)大学教育の成果や学生が身に付けた学修成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質的改善・向上を図るための体制を整備し、**P D C Aサイクルのシステムを構築**する。

(2)大学教育の成果や学修成果の可視化においては、原則として、以下のような情報が公表されるものとする。

- ①**学士力（学修成果）の可視化**
- ②**単位・学位の取得状況**
- ③**卒業後の進路状況（就職率、就職先）**
- ④**1週間の学修時間**
- ⑤**学生の成長感度・満足度**
- ⑥**学生の学修に対する意欲**
- ⑦**入学者選抜の状況（志願倍率、合格率、実質倍率）**
- ⑧**留年率・中退率**
- ⑨**教員一人当たりの学生数**
- ⑩**履修単位の登録上限設定(CAP制)の状況**
- ⑪**F D・S Dの実施状況**
- ⑫**日本人学生の海外渡航者数・比率**

(3)内部質保証の検証・評価においては、**学生、教職員のみならず学外者や就職先等の意見が適切に反映**されなければならない。

おわりに

組織の2・6・2理論とは？

上位2割が組織を動かしている。

下位2割も「**組織の安定性**」の維持には貢献している。



中位の6割を尊重する評価システム

<参考>

大学評価・学位授与機構の試行評価事例

岡山大学教員個人評価の先導的事例

筑波大学教員評価・組織評価事例

ご清聴ありがとうございました！

皆様並びに貴学の益々のご発展を祈念します。

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

